



論文科  
奥津 茂樹

### 駿台の小論文対策授業の特長を教えてください。

慶應義塾大はほとんどの学部の一入試(法・経済・文・商・総合政策・環境情報学部)、A O入試(法学部)、自己推薦入試(文学部)で、早稲田大は一部の学部(一般入試(スポーツ科学部)、A O入試(政治経済学部)、自己推薦入試(教育学部、社会学部)、スポーツ科学部)で、小論文試験を実施しています。これらを突破するための基礎力と実戦力は、駿台の小論文対策授業を通じて強化することができます。基礎力は前期・後期の「社会科学系論文」、「人文社会系論文」、「人文社会総合論文」

「社会科学系論文」、「人文社会系論文」、「人文社会総合論文」

で身につけます。実戦力は学系・学部ごとに設けられる夏期・冬期・直前講習の個別学部対策で伸ばしていきます。

授業の最大の特長は「とにかく書く!」ことです。論文という教科はアクティブラーニング(能動的学習)を基本とし、テキスト・参考書を読むだけ、授業を聞くだけの受動的な姿勢では何も身につけません。与えられた課題について、自分なりに理解したことや考えたことを、能動的に「書く」経験を積み重ねることが何よりも大切です。もちろん、授業の中で各自が書いた答えは講師が添削をし、改善していくための助言をします。それを読み、受験生は内容を練り直し、書き直していきます。learning from errorを繰り返していくことで「論文力」は飛躍的に伸びていくはず。

### 入試突破に必要な「論文力」とは何ですか?

早慶大の小論文試験は、学部によって形式、内容等に違いが

ありますが、課題文・資料が出題される点は同じです。求められているのは、課題文・資料を的確に読み取る「理解力」と、それに基づき自分自身の考えを深めていく「思考力」です。「論文力」という言葉から表現力だけを考えて浮かべる人が多いと思います。しかし、どんなに文章が上手でも、「理解力」の的確さと「思考力」の深さを欠いた内容では入試で高い評価を得られません。

ちなみに、30年以上にわたる小論文試験の歴史がある慶應義塾大法学部は、入試で問う能力を「理解力・構成力・発想力・表現力」という4つの言葉で表しています。「構成力」とは論理性を、「発想力」とは独自性を意味するもので、両者を合わせたのが「思考力」です。大学・学部や出題内容によって若干の表現・内容の違いがありますが、「理解力」と「思考力」が早慶大の求める「論文力」の中心だと考えてよいでしょう。

また、「論文力」は「課題解決能力」と表現することもできます。これは大受験だけでなく、公務員や会社員の採用試験や昇格試験でも問われるもので、「現状の把握」「課題の発見」「課題の分析」「課題の解決」という流れで物事を論理的に理解・思考する力を意味します。課題文という表現に象徴されるように、大学は受験生が理解し、考えるべき課題を文章の中に設定しています。図表等の資料が出題される場合も同じで、出題者は課題文・資料を通じて「現状の把握」「課題の発見」という解答の糸口を提示します。それを起点に課題の構造・要因を分析し、解決の方向性・方法を考えていくことも「論文力」なのです。

### 小論文の効果的な対策を教えてください。

小論文にかかわる有害無益な言説が世の中にはあふれています。そうした「ムダ」を省き、出題の内容・傾向に応じた学習を進めていくことが効果的な対策です。たとえば、論文の型をおぼえ

るというマニュアル「対策」があります。しかし、解答の構成・内容は設問や制限字数によって大きく異なるため、一つの型だけで対処できません。また、ネタ(知識)があれば小論文を書けるという思い込みもありません。しかし、ネタがあふれるインターネット時代にもかかわらず、まともな文章を書けない人が多いのは、「思考力」や「課題解決能力」がないからです。

型やネタへの依存は、早慶大に限らず小論文入試全般にみられる困った傾向です。ある大学の小論文担当者は「小論文対策、小論文指導が画一化しているのではないだろうか。時事問題におけるキーワードだけを取っているだけのように感じられる」と嘆き、型模範解答の形式やネタ(時事問題におけるキーワード)に依存する受験生や教育関係者に対してイエローカードを突きつけています。

困った傾向にクサビを入れるのは早慶大の小論文入試にもみられます。慶應義塾大経済学部は「遺伝子診断」「大学教育のあり方」「霜柱の研究など、あえて経済とは無関係なテーマを次々に出題してきました。それは、専門分野のネタをあさって備えようとする「ムダ」に対するメッセージです。また、慶應義塾大法学部は、単純な二項対立ではなく、両者がどう折り合うかを考える出題が近年続いています。それは、何でも是非・賛否で書くような型通りの指導・答案という「ムダ」に対する異議申し立てでもあります。

「天声人語」を書き写すことで文章がうまくなるのでしょうか?、ある受験生の質問です。実際の出題をみれば早慶大の小論文試験がコピペを求めていることは明らかで、これも「ムダ」な対策の一例です。そもそも対策とは、相手にしっかりとつかみ、それに適切に対処することです。まずは第二志望の大学・学部の出題傾向をつかみ、設問や課題文・資料に応じた解答方法・内容に習熟することが効果

的な対策です。

### 入試突破のために高校1・2年生のつちは何をしておくべきですか?

根拠のない思い込みや効果がない「ムダ」を徹底的に省くのが、駿台の小論文対策授業です。ただし、多くは高3生・高卒生を対象としたものです。では、高1・2生は何をすべきなのでしょう。

早慶大の小論文試験をみると、多くが現代の社会・世界の課題に関するものであることがわかります。少子・高齢化社会の到来、原発依存政策の行きづまり、政治的無関心の拡大、貧富の格差の固定化、テロ・紛争の深刻化、地球環境の悪化など、ふだんの勉強や生活の中では深く考えてこなかった課題を、小論文試験でいきなり突きつけられた受験生が戸惑うのは当然です。この戸惑いを緩和し、取り除いていくのが高1・2生のうちにならなくてはなりません。

Zバザリ言うならば、もっとも「社会」世界のことを知り、考えていくようにすることです。新聞や本を読むことはもちろん大切ですが、ニュースソースはそれだけではありません。テレビやネットのニュースをみるだけでなく、社会・世界の課題に近づくことができます。未知の社会・世界に対する関心・意欲を少しずつ育てていくことが大切です。

### 受験生へのメッセージをお願いします。

私は、予備校以外の仕事として、自治体・企業の採用試験、昇格試験の論文審査をやっています。大人の小論文を読みながら、小論文対策は受験のためだけではないことを実感します。これからみなさんが生きていくうえで、「理解する」「考える」「表現する(こ)はすつとついでに「回ります。その術を若いうちに身につけていくことは、とても大きな財産になるはずです。